

## 翻訳一口メモ

### その24

#### 英語のジョークを訳してみる

今回はちょっと趣向を変えて、英語の冗談を日本語に訳す場合のちょっとしたヒントを書いてみることにしました。

当然ながら、直訳しても通じないのが英語のジョークですから、訳には一工夫が必要です。そのためには、まず直訳で意味をとり、それから中間訳をし、最後の段階で読みやすさを加味したり多少の脚色を加えながら意識にもっていくというプロセスが必要になるかと思われまます。

そこで昔遊びがてらに、ある人から添削を頼まれたジョークの訳出にあたってお互いにやりとした内容をご紹介します。

(中略)

そんな訳で時間あいたので論評してみます。

まあ大体いいと思いますが、数ヶ所誤訳があります。(このため今回は88点ぐらいか)もしかして翻訳ソフトに下訳させてから、仕上げているのでは?見直しもしていないような気がします。いい翻訳に仕上げるには何回も書きなおさないとだめです。意味がとれればそれでいいというのでは学校英語と同じです。英文解釈とは違うのが翻訳でしょう。プロはみんなそうして金もらってます。東京でフリーで金を稼いでいた頃は、誤訳があると金を払わないなんて客がいましたしね。とにかく、意識の前に誤訳に注意です。

ただ、こういった類のリラックスして読める文章には、ある程度脚色するというのも一つのテクニックです。そもそもジョークなんですから、日本語訳でも面白おかしく訳せば、原文と較べて多少の差異(文章の長短の違い、リズムをつけてやる、読みやすい等)が出ても半分成功といえましょう。

しかし、驚いたのは私。Aさんがこんなに英語できるとは知りませんでした。お見事でした。

Fire !

#### 【火事】

Erap, his son Jinggoy and wife were trapped in their building by a fire. They tried to escape by climbing to the roof. Firemen are on the street below, holding a blanket for them to jump into. The firemen yell to Erap's son, "Jump! Jump! It's your only chance to survive!" He jumps and

SWISH! The firemen yank the blanket away. He slams into the sidewalk like a tomato.

Aさんの訳：

エラップと彼の子供であるジンゴイ、そして奥さんの3人が火事でビルに取り残された。彼らは屋根に上って逃げようとしている（この難から逃れようと屋上に駆け上がった[逃避した]）。消防隊員は既に下の道路で彼らの飛び降りを受け止めるため毛布を広げて待っている（眼下の道には消防隊がおり、落下救難に使う毛布を広げて待機していた。）。

消防隊員は、ジンゴイに向かって言った（叫んだ）。「飛べ！飛べ！（訳者注：飛べ！だけじゃちょっと足りないんじゃないですかね。飛び降りろ！、ここへ飛び込め！とか変化つけたほうがいいのでは？）これが生き残る最後のチャンスだぞ！（このチャンスは、一か八かの可能性に賭けることを表しているのだと私は思うのだが）」ジンゴイはしゅんと風をきって飛んだ。ところが、消防隊員は毛布をグイと遠くに引っ張った。（ここが一番難しいところじゃないですかね。yank awayの意味は「グイッと引く」ということですが、複数の消防隊員がグイッと毛布を引いたらどうなりますかね？「グイッと引き、離してしまった」が適訳のような気がします。）ジンゴイは歩道にトマトのようにつぶれて落ちた。（厳密には、「歩道に激突して、つぶれたトマトのようにグシャグシャになってしまった」ということでしょうか。歩道に落ちてからつぶれたんですから。）

拙訳：

エラップと彼の息子であるジンゴイ、そして奥さんの三人が、自ら所有するビル内に火事で閉じ込められ抜き差しならない状態に追い込まれた。三人はこの難から逃れようと屋上に待避した。眼下の道には消防隊が出動しており、救難に使う毛布を広げて待機していた。

「飛んで、飛んでください！他に生き残れる方法はありません！」と消防隊員らはジンゴイに向かって声を張り上げた。ジンゴイはシュンと風をきって飛んだ。ところが、消防隊員らは毛布をグイッと引き、離してしまった。このおかげでジンゴイは歩道に激突、つぶれたトマトのようにグシャグシャになってしまった。

"C'mon! Jump! You gotta jump!" say the firemen to his wife. "Oh no! You're gonna pull the blanket away!" she says. "No! It's Jinggoy we can't stand! We're OK with you!" "OK," she says and she jumps. SWISH! The firemen yank the blanket away, and she is flattened on the pavement like a pancake. Finally, Erapp steps to the edge of the roof. Again, the firemen yell, "Jump! You have to jump!"

Aさん訳： 「来い！飛べ！飛ぶんだ！消防隊員は奥さんに向かって言った。「イヤよ。あなたたちは毛布を取り去っちゃう気だわ。」奥さんは言った。「違う。それはジンゴイの話だ。奥さんは大丈夫だ。」奥さんはやはりしゅんと風を切って飛んだ。消防隊員は今度もグイと毛布を取り去った（引き離してしまった。）。奥さんは歩道にパンケーキのようにつぶ

れて落ちた。(歩道に落下してパンケーキのようにペシャンコになってしまった。やはり落ちてからつぶれたんですね、ここでも。)

最後にエラップが屋根の縁に立った。(に足を踏み出した。) 再び消防隊員が叫ぶ(声を張り上げる)。「飛べ！飛ばなきゃダメだ！」

拙 訳： 「さあ早く！ 思い切って！ 飛び込んでください！」消防隊員は奥さんに向かって言った。「イヤだわよ！ あなた方また毛布を引き離すつもりなんでしょう！」と奥さん。「大丈夫！ ジンゴイの場合はどうしようもなかったんです！ 奥さんなら大丈夫です！」 「分かったわ」と答え、奥さんは飛び降りた。ヒュー！と風を切る音。またもや消防隊員らは毛布を引き離してしまったので、歩道に落下した奥さんはパンケーキのようにペシャンコになってしまった。そして最後にエラップが屋上の縁に足を踏み出した。また消防隊員が声を張り上げた…。「飛び降りてください！ 飛ぶしかありません！」

“No way! You’re just gonna pull the blanket away!” yelled Erap.

“No! Really! You have to jump! We won’t pull the blanket away!”

“Look,” he says. “Nothing you say is gonna convince me that you’re not gonna pull the blanket away! So what I want you to do is put the blanket down, and back away from it...”

Aさん訳： エラップは叫んだ。「ダメだ。おまえらは毛布を取り去っちゃう気だろう！」

消防隊員は言う。「違う！ 本当だ！ 飛ばなきゃイカン！ 毛布を取り去る気なんか無いよ！」

エラップは言った。(このつながりは、言ってる本人が消防隊員の一人なのか、エラップなのか混乱する書き方です)「聞け！ おまえらは毛布を取らないと俺に確信させるようなことは何一つ言っちゃいない！ 俺の言いたいのは一つだけだ。毛布を置いて、そこから遠くに離れろ…。」(この文章は、誤訳ですね。大体の意味は「何言っても駄目、君らが俺を説き伏せることなど無理。だからだまってそこに毛布をおいて引き下がっていただきたいというのが私が君らにやってもらいたいことなのよ」ということです。)

拙 訳： 「冗談じゃない！ また毛布を引き離すつもりだろう！」とエラップは声を張り上げた。「いいえ！ 本当です！ 飛び降りてください！ そんなことしませんから！」と応酬する消防隊員。

「いいか！」とエラップは言い、こう続けた。「毛布を引き離さないとか言って私を説き伏せようと、何言っても駄目だ。だから毛布を置いてそこから引き下がっていただければそれでよろしい…」

…かような感じですかね。結局、毛布を置いていかれたら助からない訳ですが、この頭の悪さを茶化しているように思われます。

暇あれば添削よろしく。

さて、一応次のように理解しました。合ってますか？

Password:

Erap was sitting at his computer surfing at his favorite site, Disney.com. His son looked over his shoulder and saw that he had written his password down on a yellow Post-It so that he wouldn't forget.

His son noticed that his Disney password was "MickeyMinnieGoofyPluto," and asked him why it was so long.

"Because," he explained, "they say it has to have at least four characters."

Bさん訳：

パスワード

「Erap は、お気に入りのディズニーのサイトでネットサーフィンを楽しんでいた。それを肩越しに見ていた彼の息子が、忘れないようにサイトのパスワードを黄色いメモに書き留めたが、息子はこのパスワードがとても長いことに気づいた。「ミッキーミニーマニーグーフィープルートー」となっていたのである。息子はどうしてこんなに長いのとE r a pに尋ねた。Erap 曰く、「だって、ディズニーは（パスワードは）最低4文字（4キャラクター）以上だと言うんだよ…。」

「合ってますか？」と頼まれたからには、だまっていると失礼でしょう。そこでちょっと論評してみます。90点としたのは、「それを肩越しに見ていた彼の息子が、忘れないようにサイトのパスワードを黄色いメモに書き留めたが」の部分が誤訳でした。書き留めたのはErapであって、息子ではありません。そしてこの節は過去完了形になっていますから、息子が見た時にはすでにそこにはメモ書きがあったということになります。またPost-Itは日本でも売られている裏面が粘着性の付箋紙のことなのですが、このところが「黄色いメモ」と大幅に意識されておりました（ただし、読みやすさという点ではBさん訳に軍配があがるかな？）。というわけで、翻訳するときには手を抜いてはいけません。特にポイントとなるところには、十分気を使って訳さないと誤訳してしまう危険性大です。

試しに私も試訳してみました。ご参考まで。

Erapのジョークを出したのは、彼が現役の大統領時代に国民がその英語をさんざんにかかったジョークが一時フィリピンを賑わしていたことがあったからです。高卒で元アクションスターの彼は教養がなく、フィリピンの歴史始まって以来初の英語をよく分からない大統領だったからです。彼の英語をからかった、フィリピンのジョークは枚挙にいとまがありません。

拙 訳：

パスワード

パソコンの前に座って、彼お気に入りのディズニーのサイト (Disney.com) でネットサーフィンの真っ最中のErap。その様子を肩越しに眺めていた息子は、黄色のポストイット (付箋紙) にErapが忘れないようにとパスワードをメモ書きしていたのを目にした。息子はこのパスワードが「MickeyMinnieGoofyPluto (ミッキーミニーマニーグーフィープルト)」であることに気づき、どうしてそんなに長くしたのかと尋ねた。

Erap曰く、「それはね、パスワードには最低4キャラクター書き込んでくれという、ご指定があるからなんだよ...」 (characterを文字ではなく、キャラクターだと場当たりな勘違いをしてしまったErapの間抜けさをからかったジョークでした)

このついでに、あるジャパニーズ・ビジネスマンにちなんだジョークを一席。

Japanese business man in Africa

Two businessmen were traveling together through a jungle country. One of them was Japanese and the other was a local man. They were walking in a big plain. All of sudden, in the open, they came across a huge, mean-looking tiger. The Japanese businessman calmly took a pair of jogging shoes out of his travel bag and put them on. Watching this, the local man sadly told the Japanese, "It's good try but you can never run faster than the tiger." Hearing this, the Japanese businessman answered, "Never mind, I just want to run faster than you, my friend."

興味のある向きは、おもしろおかしく日本語に訳してみては？

蛇 足：

冗談はなんとか訳せるでしょうが、駄洒落 (pun) となるとどうでしょうか？

その国の言葉で韻を踏んでとんちを働かせついでに笑いも誘うというのが駄洒落でしょうから、外国語になるとまったく違った音になり、駄洒落どころじゃなくなりますよね。

日本人が鯨を食べるということで動物虐待だと欧米人から言われたある人がこのように応戦したそうです。

You get angry when we eat whales. But, we feel hungry when we don't eat whales.

そしてこれを聞いたその外国人は大爆笑し、雰囲気が和らいだそうです。つまり、-gry, -gry と韻を踏んでいるところが pun であちらの人になれば、おもしろおかしい冗談となるからです。それにしてもこの方、かなり英語のセンスがいいですね。

ただし、この英語を即興でとりあえず日本語に訳すと語呂合わせがきかなくなります。

「我々が鯨を食べると、あなた方は怒る」「しかし、我々は鯨を食べないと腹がへるのだ」  
そこで（訳者としての意地を通したい！）私はあえてこれも語呂合わせ可能じゃないかと訳に挑戦してみました。

「我々が鯨を食べると、あなた方は立腹する」「しかし、我々は鯨を食べないと空腹になる」あるいは、「我々が鯨を食べると、あなた方は腹をたてる」「しかし、我々は鯨を食べないと腹がすくのだ」

まあ、こんなにうまくいくことは稀で、駄洒落を完璧に翻訳するなど夢のまた夢かもしれませんね。

これにて、24回目完了。